

としま 議会だより

平成 30年 8月 17日発行 (年 4 回発行) Toshima Village Council 2018.08. No.82



写真募集中!

議会だよりに掲載する写真を募集しています。
お問い合わせは議会事務局まで

▲交通安全教室の様子 (宝島いまきら園)

TOPIX

● 平成 30 年 6 月定例会

・ 6月 11日～6月 13日 (3日間)
12 議案を審議、全会一致で可決

● 一般質問

- ・ 日高久志議員 村営簡易宿泊施設の建設について
- ・ 永田和彦議員 定住対策・人口問題について
- ・ 日高助廣議員 本村の定住促進対策について

・ 田中秀治議員 観光振興について

● 補正予算

一般会計予算は 48 億 9383 万 5 千円

● 平成 30 年 7 月臨時会

・ 7月 17日 (1日間)
3 議案を審議、全会一致で可決

専決処分

- 十島村税条例の一部を改正する条例

法律の改正に伴い、改正するものです。特に関わりのある項目を下記にて一部抜粋します

- ①土地税制：固定資産税等(土地)の負担調整措置
・現行の仕組みを3年延長
- ②給与所得控除・公的年金等控除から基礎控除への振替
・給与所得控除・公的年金等控除を10万円引下げ、基礎控除額を同額引上げ(基礎控除額:33万円→43万円)
- ③給与所得控除・公的年金等控除の見直し
・給与所得控除の上限引下げ(上限となる給与収入1,000万円超→850万円超)
・公的年金等控除の上限の設定(上限となる公的年金等収入1,000万円超) など
- ④たばこ税の見直し
・税率を平成30年10月1日から3段階で引上げ。
・加熱式たばこについて、国のたばこ税と同様、課税方式の見直しを段階的に実施
- ⑤税負担軽減措置：新築住宅に係る税額の減額措置を2年延長

報告

- 平成29年度十島村繰越明許費繰越計算書の報告について

平成29年度の事業のうち、繰越が可能な国庫補助事業や入札不調等の理由により年度内完成が見込めない事業などの予算を平成30年度に繰越し、それらを集計し議会へ報告したものです

翌年度繰越額(H29→H30) ・一般会計 936,913千円 ・簡水特会 25,000千円

権利の放棄

- 十島村優良雌牛導入基金事業における貸付牛の金銭債権の放棄
(放棄金額：234,395円)
- 十島村黒毛和種優良肉用繁殖雌牛預託事業における貸付牛の金銭債権の放棄
(放棄金額：650,000円)

十島村議会 平成30年7月臨時会 議決結果

3案件を審議 全て全会一致で原案のとおり可決しました。

開催期間	7月17日(火)(1日間)	審議した案件	・村長提出議案3件
可決・採決状況	・原案可決 3件		
可決した主な議案	・契約の締結について(2件)	・平成30年度の補正予算について(1件)	

平成30年度補正予算

- 一般会計 補正第2号 28,138千円 → 補正後 4,785,501千円

契約の締結

- 平成30年度十島村諏訪之瀬島及び平島地区携帯電話等エリア整備工事請負契約の締結
契約目的：平成30年度十島村諏訪之瀬島及び平島地区携帯電話等エリア整備工事
契約金額：1,058,400,000円
契約相手：西日本電信電話株式会社 鹿児島支店長 榊原 寿治
(平成30年7月5日付、仮契約締結)
契約内容：情報通信基盤の整備(実施設計・工事施工)
情報通信サービスの提供(LTE化)
- 物品売買契約の締結(荷役作業用フォークリフト)
契約目的：荷役作業用フォークリフト購入
契約金額：8,910,000円 契約相手：ロジスネクストユニキャリア株式会社鹿児島支店 支店長 内 信哉
(平成30年6月29日付、仮契約締結)



十島村議会 平成30年6月定例議会 議決結果

12案件を審議 全て全会一致で原案のとおり可決しました。

開催期間	6月11日(月)～6月13日(水)(3日間)	審議した案件	・村長提出議案12件
可決・採決状況	・原案可決 10件	・報告 2件	
可決した主な議案	・平成30年度補正予算について(2件)	・専決処分について(2件)	
	・条例の一部改正について(2件)	・権利の放棄について(2件)	
	・契約の締結について(4件)		

平成30年度補正予算

- 一般会計 補正第1号 △136,472千円 → 補正後 4,757,363千円
- 簡水特会 補正第1号 20,156千円 → 補正後 76,264千円

条例の制定・一部改正

- 十島村職員定数条例の一部改正
医療の充実を図ることを目的に診療所看護師の増員を進めるため、各島の診療所を1名ずつ増員し、職員定数を66名から73名へ改正するもの。
- 十島村議会議員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正
非常勤職員報酬の支払方法の見直しと通勤に要する費用弁償を加える改正をするもの。

契約の締結

- 29災6号中之島南廻線道路災害復旧工事請負変更契約の締結
契約目的：29災6号中之島南廻線道路災害復旧工事
変更契約金額：5,956,000円増の総額98,782,000円
契約相手：葉月工業株式会社 代表取締役 原田 秀作
(平成30年6月6日付、仮契約締結)
工事内容：現場吹付法砕工 1号箇所工区：+119㎡、
枠内植生基材吹付工 1号箇所工区：-730㎡、
モルタル吹付工 1号箇所工区：+815㎡、3号箇所工区：-152㎡
- 小宝島港改修工事請負契約の締結
契約目的：小宝島港改修工事
契約金額：54,215,880円
契約相手：吉留建設株式会社 代表取締役 岩崎 敏郎
(平成30年6月6日付、仮契約締結)
工事内容：上部工：10m、鋼製型枠：248㎡
伸縮目地工：46㎡、コンクリート打設工：458㎡
- 悪石島小学校教員住宅整備工事請負契約の締結
契約目的：悪石島小学校教員住宅整備工事
契約金額：66,960,000円
契約相手：川口建設株式会社 代表取締役 川口 和範
(平成30年6月7日付、仮契約締結)
構造・面積：木造平屋建て2世帯長屋(2DK・2DK)2棟
面積 160㎡(80.00㎡×2棟)
工事内容：建築工事・電気設備工事・機械設備工事・外構工事
- 物品売買契約の締結(油圧ショベル・ブッシュチョッパー)
契約目的：油圧ショベル・ブッシュチョッパー 契約金額：21,394,800円
契約相手：株式会社ニットク 代表取締役 江夏 洋 (平成30年6月8日付、仮契約締結)



▲中之島南廻線道路災害復旧工事の様子



▲小宝島港の様子

一般質問



日高久志議員

村営簡易宿泊施設の建設について

問 現在の民宿と競合しないかたちの簡易宿泊施設(ゲストハウス等)を村営で出来ないか伺う。

村長 慢性的に飽和状態にある宿泊施設の確保を図るため、何らかの対策が急務であると認識している。宿泊施設の確保の方法については、「民泊制度」の推進や、現在の民宿経営者が、施設を拡大するための「増改築費用」や「新規民宿の建設費用」に対する支援、また、工事関係者に宿舍を別に準備出来るよう「企業」への支援、あるいは、「村で宿泊施設」を整備すべきか等、様々な観点から検討していかなければならず、急を要する問題であるが、早計に判断することが難しい。ただ、村での簡易宿泊所の整備については、20数年前には村でも簡易宿泊所を管理しており、廃止した経緯として、「民宿を圧迫する」「村で管理する必要性があるのか」という批判があり、行政改革の中で議論し、住民に払い下げ廃止した経緯がある。

また、定住者の体験型施設については、農林水産業と連携した「体験型観光」やボランティア団体の受入による「交流型

十島村の人口を、2015年の756人から35%減少の489人と推計している。そのような最悪の状況を招かないために、現状をしっかりと認識し、村民と行政が一致結束して「人口対策」を十島村の最重要課題として取組んで行くべきと考える。

せっかく平成22年から7年連続で増えてきた人口を、もう一度右肩上がりとなるように取組んで行くべきと考える。

問 定住促進事業の成果を出すためには、特にUターン者の「新規就業者育成事業」の支援の見直し、生産性向上の対策、更なる拡充等が必要不可欠であると思うが、村長の考えを伺う。

村長 本村の就業者支援制度は、平成22年にスタートし、更に平成25年に拡充したところだが、10年近く経過しようとする中で、現在の制度のあり方がこのまま良いのか検証すべきだと考えている。就業支援を受ける者が、自立に向かっているか、5年経過後の産業基盤等はどうしているか等を確認することも必要だと考える。

報奨金制度を設け、新規就業者に一定の成果目標を立てさせ、その目標を達成した場合には、例えば、報奨金の支給、あるいは貸付金があった場合には、償還金の一部免除、畜産の場合であれば、子牛の支給制度等を設け、新規就業者の本気度を問う制度等も必要だと考えている。

安定した経営に向けては補助金内容を拡充することは有効な手段とも考えるが、限られた財源の中での支援となるため一定の条件も必要になると考える。

問 各島に設置している「地域づくり委員

観光」を計画している。宝島と悪石島が既

に実施しており、現在中之島の開発センターの一部を確保し、今年度県の特定離島ふるさとおこし推進事業で進めようとしたが、県の事業採択が降りなかった。次年度以降に「体験型施設」の整備を進めていきたい。

現在考えられる対策について、今後詳細に検討を進める。ある程度方向性が出た時点で議会に相談したい。



永田和彦議員

定住対策・人口問題について

問 肥後村長が就任されてからの6年間の人口動態の推移について説明を求めらる。

村長 人口推移を振り返ると、昭和30年には人口が700人を下回り、平成22年には600人を下回る事態となり、この人口問題を村の最大の課題として掲げ、人口減少に歯止めをかけ改善を図るために、平成22年から思い切った定住関係の支援施策を実施した。

その結果、徐々にではありますが、人口増加が続き、平成28年には10数年ぶりに住民基本台帳人口が700人を上回ったが、平成29年には、前年より6人減の709人、そして今年の5月末現在では、前年より18名減の691人となる。

問 今現在、行っている支援策について、具

体「定住促進プロジェクトチーム」等の住民組織を含む住民、行政、有識者等を交えた「十島村定住促進協議会」を立ち上げ、定期的に協議し、定住促進対策を講じる必要があると考えるが、村長の考えを伺う。

村長 地域と行政が一体となって取り組まなければ、一定の成果は出ない。本村は、現在、定住者受入れのための「定住促進プロジェクトチーム」つまり「定住プロジェクト推進委員」制度を平成24年に立ち上げている。

一昨年は、各島において定住検討会を行ない、「各島の目標人口の設定」や「各地域の課題の整理」を行なった。

また、昨年は、各島の定住プロジェクト推進委員の代表者及びUターン者が宝島に集まり、宝島の取組状況や各島での現在の取組状況・課題等を共有したところである。

今年度は、「定住プロジェクト推進委員」のメンバーに婦人会や老人会、地域づくり組織や畜産・漁業従事者等多くの住民を交えた新たな組織を立ち上げ、定住者に優しい地域を目指して、地域みんな定住者を支える取り組みができるような体制整備を進めて行くべきと考える。

全国の中でも地域づくり、あるいは移住の成功例は、行政任せではなく、いかに地域が自分たちのこととして認識し、主役となって自主的に活動している地域となっており、それを考えるといかに地域での取組が重要であるかと感じる。

心機一転した組織の中で、各島の移住関係の取組状況や課題、目標人口、就業支援のあり方、移住者の受入状況等について、地域でしっかりと議論し、意見共有を図った中で、定住者を地域みんな

体的な説明を求めらる。

村長 定住支援策を大きく分けると、住宅関係支援、生活支援、産業・就業支援、子育て支援、教育関係支援の5つの部門となる。

住宅関係支援は、村営住宅(定住促進住宅)の提供、空き家住宅の提供、住宅資金貸付の無利子運用等を行っている。村営住宅の整備及び増築、空き家住宅の改修を行ない、事業費が、平成24年度からの6年間で6億3466万5千円。

生活支援は、結婚祝い金、出生祝い金、3年目節目金、中学生以下生活支援金、入学祝い金、転入費用一部助成金、住宅取得助成金等を行い、事業費が、この6年間で、1億1562万円。

産業支援は、就業者育成事業、生産施設整備事業、農林水産業等出荷経費支援、農林水産業等出荷運賃支援、産品販売促進支援事業、新規就業者支援事業、産業振興資金貸付の無利子運用、黒毛和種優良肉繁殖雌牛預託事業、畜産振興対策事業、農地利活用事業、土壌改良促進事業等を行い、事業費が、この6年間で5億7578万7千円。

子育て支援は、ミルク紙おむつ支給事業、産後ケア事業、子ども医療費助成事業、妊婦健診船運賃事業、体験保育支援、保育料の無償化等を行なっており、事業費が、6年間で2238万1千円。

教育関係支援は、育英奨学資金貸付の無利子運用、高校修学支援金事業、海外ホームステイ補助事業等を行ない、事業費が、この6年間で、3890万1千円。

問 現時点で、何件程度の移住定住についての問い合わせ・相談が本村に対してあるか伺う。

村長 月に電話等での問い合わせが、2〜3

しっかりと支える体制づくりを進めていくべきと考える。



田中秀治議員

観光振興について

問 村長が考える十島村の観光とはどのようなものか伺う。

村長 個人または少人数を対象にした、豊かな自然を活かした体験型観光が十島村の観光に最も適しており、目指すべき観光の在り方だと考える。

問 観光協会は、観光振興上、大変重要な組織であるが、近い将来観光協会を設立する考えはあるか伺う。

村長 通常に言う「観光協会」の立ち上げは、現状では困難であると感じる。観光客の中には、十島村ならではの調整の困難さを、自らその煩わしい作業を行って来ている事実もあるため、何らかの対策、組織は必要であり、村として独自の方式での組織を検討するべきではないかと考える。

考えられるケースとして、「観光ガイド」を核として展開できればと考える。まず、各島の観光ガイド同士の連携を強化し、観光客の情報をお互いに連絡・紹介し合あい、次に観光ガイドと各民宿との連携を図る体制を島内で確立し、更にその上

件程度はある状況。

また、平成29年度は、9回の移住イベントに参加しており、90組近い移住相談を受けている。

単独の移住イベントの開催の計画、その他、各種団体が主催する移住イベントに10回程度参加する予定。



日高助廣議員

本村の定住促進対策について

問 本年4月末の本村の人口は、688人に減少し、700人を割り込んでおり、きわめて深刻な状況にあると感じるが、村長の率直な見解を伺う。

村長 国内人口は、現在、人口減少社会を迎え、毎年、止まらない人口減少に国は困難と位置付けている。

出生数は年々減少し、逆に死亡者数は毎年増え、昨年1年間の自然減は、「39万4千人」と過去最大となり、今後、更に深刻化するといわれている。

政府は、自治体に「地方創生」に取組むように働きかけ、それを機に全国的に「移住者」の争奪が激化してきており、移住希望者にとって、格段に移住先の選択肢が広がっている状況にある。

本年4月、「国立社会保障・人口問題研究所」が出した、今から27年後の2045年次の国内人口の予測の発表によると、

島や名瀬代理店等の旅行事業部との連携を図っていくなど、流れをつくるシステムを構築することが重要だと考え、この様な取り組みが、「十島村の観光協会」の基礎であると考えている。

問 観光大使の活用を図るべきではないか。村長の考えを伺う。

また、中之島を最初の舞台として描いた「おーいトンボ」の作者、かわさき健氏を観光大使に委嘱する考えはないか伺う。

村長 現在5名の方々を観光大使として委嘱している。観光大使の設置目的は、村の豊かな自然と歴史、文化、特産品等を広く宣伝するとともに、村に関する情報等の提供及び発信を行い、村のイメージ高揚と観光振興を図るものである。

観光大使に定員・期限は設けておらず、無報酬で依頼している。観光大使の5名中3名には、引き続き協力をお願いする予定で、残り2名は6月末で解任する方向で進めている。

かわさき氏については、十島村の中之島を舞台にしたゴルフが展開されているのは事実だが、観光大使委嘱は検討する必要があると考えている。

問 民宿や民泊に新規参入しようとしたときに、大きな資金が必要となることや、二の足を踏む原因であると考えている。国の特定有人国境離島地域社会維持推進交付金の制度を広く村民に広報し、活用を図るべきではないか。

村長 宿泊施設不足の解決策のひとつとして、有人国境離島の推進交付金の活用は良いと感じる。ただ、国の交付制度の中に乗るかということが大前提になり、また、個人負担も出てくるものであるため、検討したい。

**平成 30 年度
補正予算(第1号)**

**1 億 3647 万 2 千円を減額し、
総額 47 億 5736 万 3 千円へ**

主に、国・県の補助事業の内示額の決定、及び税や繰越額の確定に伴う内容となっています。

総務費 5,469 千円の増額

- ・人事異動に伴う予算組替
- ・各種団体補助金の増
- ・購入費の増 など

民生費 21,470 千円の増額

- ・特定離島 多世代交流ふれあいセンター整備（平島）に係る工事請負費の増 など

衛生費 4,606 千円の減額

- ・簡水特会操出金の増 など

労働費 419 千円の増額

- ・車輛賃借料の増 など

農林水産業費 3,389 千円の増額

- ・人事異動に伴う予算組替
- ・特定離島 元浦港ウインチデリック解体撤去に係る工事請負費の増 など

商工費 5,899 千円の増額

- ・指定管理料の増
- ・ななしま 2 修繕に係る増 など

土木費 191,849 千円の減額

- ・国・県の補助事業不採択による減 など

消防費 822 千円の増額

- ・防災行政無線運営費の増 など

教育費 75 千円の減額

- ・人事異動に伴う予算組替
- ・給食調理員退職報償金の増 など

災害復旧費 53 千円の増額

- ・災害調査旅費の増

予備費 13,325 千円の増額

**平成 30 年度
補正予算(第2号)**

**2813 万 8 千円を増額し、
総額 47 億 8550 万 1 千円へ**

主に、6月22日の大雨により、被災した中之島南廻線、及び平島南之浜線の災害復旧工事、並びに中之島ほしのこ園の改修工事に伴う内容となっています。

総務費 386 千円の増額

- ・出張所エアコン設置に伴う経費の増

民生費 5,940 千円の増額

- ・中之島ほしのこ園改修に伴う経費の増

消防費 128 千円の増額

- ・諏訪之瀬島遭難者捜索活動に係る人件費・消耗品費の増

災害復旧費 17,964 千円の増額

- ・中之島南廻線道路の災害復旧に係る経費の増
- ・平島南之浜線道路の災害復旧に係る経費の増
- ・平島地区道路応急復旧に係る委託経費の増

予備費 3,720 千円の増額

議	委	委	委	委	委	副	委	議	議	編
会	員	員	員	員	員	員	員	会	会	集
事	員	員	員	員	員	長	長	広	報	長
務	野	坂	田	日	前	永	日	調	査	松
局	紀	元	中	高	田	田	高	特	別	下
	道	勇	治	廣	一	彦	志	委	員	直
								会		志